

ファッションビジネス学会 総会資料

2026・5

2026年度 ファッションビジネス学会 定期総会

2026年度 ファッションビジネス学会 定期総会によせて

会長 平井 秀樹

このたび、ファッションビジネス学会第4代会長を拝命いたしました。

1993年の創設以来、本学会は、歴代会長をはじめとする多くの諸先輩方、そして会員の皆さまの尽力によって、ファッションビジネスに関わる学術と実践の知を蓄積し、発展してまいりました。まずは、これまで学会を支えてこられたすべての方々に、心より敬意と感謝を申し上げます。

私は2015年に本学会へ入会し、理事、各種委員会・分科会、全国大会実行委員会などを通じて、研究・企画・運営の現場を横断的に関わってきました。その立場から強く感じているのは、ファッションビジネス学会が、単なる研究成果の発表の場ではなく、多様な立場の人々が出会い、対話し、学び合う「場」としての力を持っているということです。

一方で、私たちは大きな環境変化の只中にあります。産業構造の変化、デジタル化やAIの進展、価値観や社会的要請の変容、そしてサステナビリティが前提条件となる時代。こうした変化は、ファッションビジネスのあり方そのものを問い直しています。学会においても、研究と実務の接続、世代・分野を超えた交流、学会の知をいかに社会へ発信していくかといった課題が、より明確になってきました。

こうした状況を踏まえ、私は会長として、学会の方向性を一方的に定めるのではなく、多様な知と実践が交差し続ける「場」を整える役割を果たしたいと考えています。研究成果が実務へと還元され、現場で培われた知が再び研究へと循環する。その往復運動を支える環境をつくるのが、これからの学会にとって重要だと考えています。

ファッションビジネス学会は、「生活・創・工・商・教育」という幅広い領域を包含する、学術プラットフォームです。研究者、実務家、学生といった多様な会員一人ひとりが、それぞれの関心や問題意識を持ち寄り、対話を重ねることで、学会の知は更新され続けます。学会は完成形ではなく、関わる人によって常に育ち、変化していくものです。

今後も、研究部会や論文誌、大会・シンポジウムなどの活動を通じて、学会の知的基盤を着実に強化すると同時に、社会との接点をより明確にしていきたいと考えています。そのためには、会員の皆さま一人ひとりの参画と協力が不可欠です。

本学会が、これからも「知と実践が交差する場」として開かれ続け、次世代へとつながる学会であり続けられるよう、誠心誠意取り組んでまいります。

引き続き、皆さまのご理解とご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

<p>定期総会</p>	<p>総会 第1号議案 2025年度事業報告と決算承認の件 第2号議案 2026年度事業計画と予算承認の件 第3号議案 定款および運営内規の一部改正の件 第4号議案 役員並びに名誉会員の件</p>
<p>特別講演会</p>	<p style="text-align: center;">—— 特別講演 ——</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p style="text-align: center;">テーマ：知と実践が交差するファッションビジネス学会の未来</p> <p style="text-align: center;">講師：ファッションビジネス学会会長 平井 秀樹</p> </div>

ファッションビジネス学会 定期総会

第1号議案

2025年度 事業報告と決算承認の件

(2025年4月1日～2026年3月31日)

事業報告

1 定期総会と特別講演会

2025年5月17日(土)にオンラインリモートにおいて開催され、各議案がそれぞれ承認された。

- 第1号議案 2024年度事業報告及び決算承認の件
- 第2号議案 2025年度事業計画及び予算承認の件
- 第3号議案 2024年度活性化活動結果及び2025年度活性化計画の件
- 第4号議案 運営規約の一部改定の件
- 第5号議案 役員並びに名誉会員名簿の件

総会後には以下のとおりオンラインリモートによる特別講演会を実施した。

- テーマ：新たなファッションビジネス学会のスタート
—機構改革/運営改善について—
- 講師：ファッションビジネス学会会長 岡本 義行

2 全国大会

2025年12月20日(土)、機構改革後初の全国大会を「ファッションビジネスの現在地と未来」をテーマとして東京の文化学園を会場に対面形式において開催した。「メタバースとバーチャルファッションによるファッションビジネスの構造的変革」をテーマとした基調講演から 口頭研究発表・ポスタープレゼンテーション、交流パーティーまで、盛会のうちに終了した。
全体研究発表48報(口頭発表40報、展示発表8報)

3 論文誌発行

デジタル版Vol.30を2025年5月に発行した。

4 講習会

2025年7月に論文執筆支援講習会を開催、応募者に対して講師がオンラインリモートにおいて個別指導した。

5 FBカンファレンス

2025年6月28日（土）にAIに関するカンファレンスを「ファッションビジネスと生成AIの現在地と今後の展望」をテーマとして明治大学を会場に対面形式で開催した。

6 FBアワードY2025

学生の育成支援を目的として学生を対象としたファッションビジネス企画コンテスト。4年目を迎えた2025年度は5月からの募集に119チーム428人が応募、その中から一次審査によって選出された10チームが8月9日（土）のオンラインによる最終審査会に挑み、上位3チームが決定した。

7 研修会

企画広報委員会イベント企画分科会が主催、以下の研修会を開催した。

- ・2025年夏の産地研修ツアー 尾州産地（岐阜県羽島市・愛知県一宮市）
2025年8月28日（木）～8月29日（金）1泊2日
- ・2026年春の研修会「物流最前線を学ぶ！ 物流概論+SBS物流ラボ視察」
2月18日（水）物流概論&物流最前線を学ぶオンラインリモート研修
3月13日（金）物流センターの視察研修

8 FBシンポジウム

ファッションの未来と題し、「教育とビジネスの現場から考えるイノベーション」をテーマとしたシンポジウムを2025年9月8日（月）に神戸国際大学を会場に対面とLIVE配信において開催した。

9 講演会

九州拠点において以下の講演会を開催した。

- ・2025年6月21日（土）学校法人山内学園を会場に「創立90周年記念」のコシノジュンコ氏による講演会
- ・2025年11月11日（火）香蘭女子短期大学を会場に田口一子氏による教育講演会

10 発表会

研究部会主催による研究部会合同発表会を2026年3月7日（土）にオンラインリモートにて開催、全13部会が参加、研究部会についてから活動内容と今後の予定までを発表した。

11 委員会/分科会

以下のとおり、4委員会/3分科会について報告する。

総務委員会（2026より共創企画委員会）2025結果および2026計画・組織

2026組織 計7名 *順不同・敬称略

メンバー	氏名	理事/会員	所属
委員長	鈴木 康久	理事	杉野服飾大学
事務長	青木 智美	会員	文化ファッション大学院大学
委員	櫛下町 伸一	理事	文化ファッション大学院大学
	増田 大助	理事	ファッションビジネス学会 事務局長
	岡田 絵梨奈	理事	香蘭女子短期大学
	菊原 政信	会員	フィルゲート(株)
	大泉 明子	会員	慶應義塾大学・文化学園大学院卒業

活動報告

2025計画	<p>■2025年度当初活動計画とその後の活動変更について</p> <p>◆当初は、主な活動計画として以下の四点を掲げた。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①本部一元管理への移行に伴い、従来の各支部間の情報把握が難しくなるため委員会を通じて各地域の情報共有を図っていく。 ②引き続き、会員獲得に向けた効果的な施策の検討を行っていく。 ③作成したフライヤー等の販促施策の検討など。 ④その他FB学会の活性化及び発展に有効な外部情報の収集と共有。 ⑤本部一元管理への移行に伴う総務委員会の機能性や役割の再構築 <p>◆改組の立案と提言について</p> <ol style="list-style-type: none"> ①支部制廃止に連動し拠点制度への転換が図られている。加えて本部一元管理への移行が実施された事により、総務委員会の改組転換が必要となった。 ②そのため事務局と連動しながら、総務委員会にて協議を重ね、組織名称変更案、運営内規変更案等を策定した。
実施活動 会議 ①	<p>■FB学会 総務委員会 6/4（水）</p> <p>◆日程：6/4（水）17：30～</p> <p>◆会議形式：ZOOMオンライン会議</p> <p>◆議題</p> <ol style="list-style-type: none"> ①新規メンバーご紹介 ②総務委員会メンバーの確認 ③定期総会の情報共有 ④本年度活動方針 ⑤情報共有 ⑥その他
実施活動 会議 ②	<p>■FB学会 総務委員会 11/17（月）</p> <p>◆日程：11/17（月）17：30～</p> <p>◆会議形式：ZOOMオンライン会議</p> <p>◆議題</p> <ol style="list-style-type: none"> ①FB学会理事会の情報共有

<p>実施活動 会議 ②</p>	<p>②12/20の全国大会について ③総務委員会の役割・運営について ④総務委員会の改組転換について ⑤会員増加策の具体化</p>
<p>実施活動 会議 ③</p>	<p>■FB学会 総務委員会 ◆総務委員会の改組転換について 資料の共有、意見交換をメール等にて行い、新名称、運営内規等について検討を重ね、提言内容を総務委員会にて策定した。 ■総務委員会の改組転換 ◆新名称 ⇒ 共創企画委員会 ◆内規等変更 「総務委員会」改め「共創企画委員会」における現行運営内規の改定について*別途</p>
<p>2026年度 計画</p>	<p>■2026年度活動計画 ◆主な活動計画として以下の四点を掲げたい。 ①改組転換により新組織となった事の再認識と運営内規等の確認を行っていく。 ②新体制下における会員獲得に向けた効果的な施策の検討を行っていく。 ③会員募集用のフライヤー等の販促施策の検討実施。 ④その他FB学会の活性化及び発展に有効な外部情報の収集と共有。</p>

論文審査委員会 2025結果および2026計画・組織

2026組織 計5名 *順不同・敬称略

メンバー	氏名	理事/会員	所属
委員長	内海 里香	理事	文化ファッション大学院大学
事務長	山岡 真理	会員	文化ファッション大学院大学
委員	富澤 修身	会員	大阪公立大学
委員	荒川 京子	会員	文化ファッション大学院大学
Web相談役	安田 和史	理事	(株)スズキアソシエイツ/法政大学

活動報告

目 標	<p>学会活性化の一環として2023年度からスタートした論文のデジタル化によって、論文投稿の促進とコストの削減および作業効率の向上を一層推進していく。</p>
2025結果	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル版2025年度vol.31号の発行に向けた査読・編集作業を進めた。 *投稿数は、論文7報（募集締切時）であった。査読の結果、論文3報、研究ノート1報（「論文」→「研究ノート」に変更）、取下げが3報となった。 ・委員会活動について、以下の内容の見直しを行い実施した。 *査読期間確保に伴い、2023年度より投稿原稿提出締切日を8月末日としているが、査読期間内の提出遅れもあり、進行が難しいこともあった。 *査読審査に伴う検討が必要な案件（研究倫理に対する理解が乏しいと思われる高校生の入会・論文投稿）が発生し、事務局に相談したところ、学生会員に関する学会規程の見直し・改善につなげることが出来た。 *査読者の確保の問題 査読を依頼した論文6報のうち、依頼した査読者から査読を断られた件数は6件。査読可能な学会員の少なさもあり、特定の学会員に査読が集中してしまう場合もある。 *全般的に、査読の質の向上は見られた。 *学会員に向けた「研究論文の書き方セミナー」にて、講義・指導を行った。
2026計画	<p>Vol.32の発行に向けて、引き続き改善点を挙げ、見直しを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> *投稿者・査読者の継続的確保（質・量とも）に向け、学会及び当委員会の認知度向上。 *特定テーマで、公募論文（表彰・懸賞金付き）の企画検討。 *投稿原稿作成時における生成AI利用に関する学会方針について検討。

以上

研究委員会 2025結果および2026計画・組織

2026組織 計6名 *順不同・敬称略

メンバー	氏名	理事/会員	所属
委員長	青木 稔	理事	文化ファッション大学院大学
事務長	鶴 鉄雄	会員	上田学園
委員	平野 大	会員	国際ファッション専門職大学
	岡田 絵梨奈	会員	香蘭女子短期大学
	森本 美紀	会員	和洋女子大学
	宋 ユキ	会員	文化ファッション大学院大学

活動報告

目標	<p>本委員会は学会活性化の見地から、研究者ファーストをテーマに日本の専門職教育の体系化に役立てることに重点を置きながら、国内外の文献研究とファッション企業の事例研究を組み合わせる研究していく。ファッションAI時代を生き抜くことができる教育カリキュラムの開発が急務となっている現在、本研究会では国際標準に向けて、日本のファッションビジネス教育カリキュラムを研究し学会において提案していく。</p>
2025結果	<p>2025年度に計画した以下の項目について成果を達成することが出来た。 本計画はファッションビジネス学会の現状分析と問題解決への方向性を合理的に研究するため、下記の計画を実行し完遂した。</p> <p><2025計画項目と報告></p> <p>①9月8日(月)ファッションビジネス学会主催 シンポジウム「ファッションの未来」をファッション経営学カリキュラム研究会と共同で神戸国際大学にて開催した。</p> <p>②2026年3月7日(土)に研究委員会主催「2025年度研究会合同発表会」を行った。</p> <p>③研究委員会の在り方と研究会の在り方を再構成するミーティングを行った。</p> <p><2025年度研究の総合結果></p> <p>①前々年度の「企業の採用状況から分析する修士号・博士号取得者に関するジョブ型雇用の重要性」の研究により、グローバルスタンダード時代における企業側の修士号・博士号取得者への雇用ニーズが高まってきていることが明らかとなった。</p> <p>そのために、「ファッション経営学カリキュラム研究会」と連携する形で合同研究を行いジョブ型カリキュラムに基づいた「マネジメント教育セミナー」をスタートさせ、セミナー参加者の意見を参考にしながらリカレント教育の構想を練り上げた。実務としては、事前のシンポジウム資料作成/オンラインによる各種ミーティング参加/シンポジウム運営となる。</p>

2025結果	<p>②今年度の定期総会において年間計画として承認された年度末の研究部会による研究部会合同発表会を行い13部会の発表となった。(発表予定は15部会)研究委員会委員も半数の人数が参加し、司会進行を研究委員会委員長が行った。発表内容は、各部会長の自己紹介、部会の主旨/目的、部会長/事務局、部員数、活動報告および次年度の活動計画となる。</p> <p>③研究委員会の在り方を再構成し研究部会の構造分析を行いオンラインによるミーティング、各種の調査、分析、資料作成などとともに。研究部会を構造分析した結果として新機軸の研究部会を発足する必要があるため「推し活研究部会」の発足を承認することに至った。</p>
2026計画	<p>研究委員会の在り方を再構成し研究部会の構造分析の検討、実施とする。 また、日本のファッションビジネス教育カリキュラムを研究するために委員を増員させることを検討する。</p>

以上

国際交流委員会 2025結果および2026計画・組織

2026組織 計5名 *順不同・敬称略

メンバー	氏名	理事/会員	所属
委員長	五月女 由紀子	理事	杉野服飾大学
事務長	未定		
委員	上田 哲也	理事	上田学園理事長
	中村 茂	理事	元神戸松蔭女子学院大学
	土屋 淳二	理事	早稲田大学
	菊田 琢也	会員	昭和女子大学

活動報告

目標	<p>ファッションおよびファッションビジネスに関係のある海外留学、海外での教育事情、および日本における国際的な、学者・書籍・論文・文化・価値観などを討議して、学会内に発信、交流に務める。その結果から、学会の再構築、活性化に寄与する</p>
2025結果	<p>オンライン（ZOOM）会議</p> <p>①2025年8月20日（水）</p> <p>●2025年度から新設された上田安子服飾専門学校の4年制新コース「国際ナショナルクリエイティブ学科パリ留学コース（定員25名）の概要紹介：副校長大槻剛先生より日本で基礎と応用教育後、パリ留学とインターンシップ1.5年、パリ「AICP（アイセーペーL'Académie Internationale de Coupe de Paris）」への留学、モデリスト養成を目的とし、後半の半年間は現地入ブランド等でインターンシップ、学位・資格取得：高度専門士（日本）、AICP校学位（レベル6）フランス国家公認認定証</p> <p>中村委員からAICPについての歴史的な補足説明があり、1830年代に設立された伝統ある服飾専門校であり、モデリスト養成校として国際的評価が高いことなども説明があった。</p> <p>②2026年1月30日（金）</p> <p>●昭和女子大学環境デザイン学科「ファッションデザインマネジメントコース」におけるカリキュラム改変と国際交流の現状を報告（専任講師菊田琢也委員）</p> <p>まだ検討中であるが、学科の他のデザイン系コースとの連携を踏まえながら、服作りに専念する家政学科の方向性から脱却し、時代性や社会性を捉えつつ服のポイントやデザインを言語化できる教育を目指したいと報告がある。</p> <p>●中村委員から専門学校と大学の国際交流の違いを比較してGAKKAI PRESSに投稿をする提案がある。上田理事長からは現在留学前ではあるが学科の目的などは伝えられるとのこと。</p> <p>●五月女より、中国との政治的関係において、留学生ビザが出にくいのではないか？という問題を提起しており、2026年度の結果は来年度の結果を委員より確認していきたい。</p>

2026計画	<ul style="list-style-type: none"> ●組織を改編し、委員数を増加して情報交換を活発化していきたいと考えている。次回の会議までに理事からの推薦を検討していきたい。 ●上記の上田安子服飾専門学校にて2025年から開始したAICPフランス留学とモデリストの 国家資格取得についての報告、他の学校の国際交流事情を聞き、専門学校と大学との比較をまとめていく予定である。 ●委員会の外との情報交換として若者世代に人気の韓国大学との交流やイタリアのモデリスト教育の調査なども提案をいただいております。
--------	---

以上

企画広報委員会 イベント企画分科会 2025結果および2026計画・組織

2026組織 計6名 *順不同・敬称略

メンバー	氏名	理事/会員	所属
委員長	福永 成明	理事	ファッションリンクス
分科会長	平井 秀樹	理事	国際ファッション専門職大学
事務長	杉浦 佳苗	委員	文化学園大学
委員	筒井 香名	委員	フリーランス
委員	秋光 淳生	委員	放送大学
委員	田口 一子	理事	元 中国デザイン専門学校 校長

目標	既存会員の満足度向上および新規会員獲得を目的に、産地研修やシンポジウム等の各種イベントを企画・実行する。
2025結果	<p>尾州産地研修（2025年8月28～29日） 世界三大毛織物産地である尾州（岐阜県羽島市・愛知県一宮市）にて1泊2日の産地研修を実施。紡績から整理・加工まで繊維関連工程が集積する現場を見学し、14名が参加。参加者から高い評価を得た。</p> <p>物流研修（2026年2月～3月） 初の2段構成で実施。2月18日に外部講師・小橋重信先生を招いたオンラインセミナー（約14名参加）を開催し、その後3月13日にSBS物流センターおよびLTラボを視察（5名参加）。最新の物流システムやロボット技術について理解を深めた。少人数であったが参加者の満足度は高かった。</p>
2026計画	<p>年2回（8月・3月）の産地研修を継続実施予定。</p> <p>2026年8月：児島デニム・ジーンズ産地研修ツアー（定員15名）を予定。</p> <p>2027年3月：内容未定。</p>

以上

企画広報委員会 情報誌・図書編集分科会 2025結果および2026計画・組織

2026組織 計5名 *順不同・敬称略

メンバー	氏名	理事/会員	所属
委員長	福永 成明	理事	ファッションリンクス
分科会長	同上	同上	同上
事務長	江良 智美	会員	目白大学
委員	依田 素味	理事	日本経済大学
	安田 和史	理事	(株) スズキアンドアソシエイツ／法政大学
	平松 隆円	会員	京都光華大学

活動報告

目標	論文誌と棲み分けしたうえで、学会関連の研究情報や活動報告などをHPから発信。それによって会員の研究発表を拡充するとともに、内外に学会をアピールし、研究活動や新規入会を促進する。
2025結果	<ul style="list-style-type: none"> ・2025年10月に「GAKKAI-PRESS」7号、2026年5月に8号を発行。 ・編集内容（全国大会や定期総会などでの基調講演・シンポジウム、会員の研究発表、産地研修レポート、研究部会の紹介、新刊紹介など） ・バックナンバーを会員以外にも開示し、読者を広げる。
2026計画	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き「GAKKAI-PRESS」の編集内容を精査。 ・9号（10月発行予定）の編集内容の検討並びに編集作業。 ・非会員向けのバックナンバーの編集。 ・新たなコンテンツの検討。

以上

企画広報委員会 ホームページ/プレス分科会 2025結果および2026計画・組織

2026組織 計6名 *順不同・敬称略

メンバー	氏名	理事/会員	所属
委員長	福永 成明	理事	ファッションリンクス
分科会長	依田 素味	理事	大妻女子大学
事務長	古田 賢	会員	企業
委員	岡本 慶子	会員	法政大学
委員	城田 衣	会員	FB学会デジタルテキスタイル研究部会

活動報告

目標	活性化の一環、デジタル化において学会ホームページを活用、PRを強化し、研究促進と会員増強を目指す。
2025結果	<p>年間3回の分科会を開催した。</p> <p><ホームページ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・2024年度にトップページはじめ大規模なリニューアルを実施し、2025年度は学会組織改編（支部の廃止等）に伴い、事務局を中心にHPの内容について、適宜修正を行った。その他、個別の事案に対応しながら安定的に運用を実施した。 ・会員情報誌GAKKAI PRESSのHPアップについては、年に2回（春と秋発行）、引続きアップ。 ・今年度はターゲット別に多くの人を誘導する方法を検討し、可能なところから実施した。 <p>会員向け（メルマガにURLを明記するなど）、学生会員向け（年表の他、コンテンツの新規強化へ向けてアクション）、新規の会員獲得向け（研究会は非会員の方も参加するためお知らせをトップページに表示）など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度の予算で、さらなるリニューアルへ向けて分科会でディスカッションし、事務局・運営委員会に提案を行った。 <p><プレス></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生対象の「FBアワードY2025」の最終審査会結果など、織研新聞に掲載された。 ・事務局を通じてイベントや研究会など年間を通じてホームページへの告知、会員へ随時メール通知を行った。
2026計画	<p><ホームページ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・2026年度予算で下記の内容について、事務局・分科会・システム業者で検討の上、実施する。 <ol style="list-style-type: none"> ①新規独立バナーの再編集 過去の「FB学会全国大会」、FBアワードの内容を、一つにまとめて、独立したバナーに追加する。 ②鍵付き会員専用ページの新設（理事会決議済）※会員メリットを高めるコンテンツ ・「学会論文誌」にアクセスしやすくするため、J stageのリンク先を明記

2026計画	<ul style="list-style-type: none">・会員情報誌「GAKKAI PRESS」の最新号について、目次から本文が読めるようにする・事務局業務簡略化のため、HP上のシステム検討（会費領収書の発行など） <p><プレス></p> <ul style="list-style-type: none">・HPとSNS連動の新たな形式を模索して、参加動員・入会の促進を図る。
--------	---

以上

12 研究部会

以下のとおり、全15部会について報告する。

研究部会名	IT時代のファッションビジネス研究会
部会長/代表	熊崎 高道
メンバー	6名
2025 活動結果	当研究部では、コロナ禍以降の影響により本格的な対外活動は実施できておりませんが、業界動向の把握や今後の研究テーマの整理など、再始動に向けた準備を進めております。
2026 活動予定	現在は活動再開のタイミングを見極めている段階ではありますが、状況に応じて段階的に取り組みを進めていく予定です。

研究部会名	AI研究部会
部会長/代表	上田 徹
メンバー	約6名
2025 活動結果	<p>AI研究会・キックオフイベント開催 日時：11/25 18：00～21：00 場所：ワールド北青山ビル2F 参加者： 対面参加者：37名 オンライン参加者：45名 計：82名 登壇者： 五月女由紀子（杉野服飾大学） 酒井聡（国際ファッション専門職大学） 山田涼雅（織田ファッション専門学校） 上條千恵（株式会社ワールド）</p>
2026 活動予定	<p>基本方針「学び」から「実践と成果発信」へ—2025年度キックオフ（82名参加）の成果を基盤に活動を本格化</p> <p>①：定例研究会（年3回・ハイブリッド開催） ・6月：エージェンティックAI時代の検索と購買変化 ・9月：生成AIとファッションデザイン、創造性の拡張と著作権課題 ・12月：エージェンティックAIと産業構造の変化</p> <p>②：外部専門家招聘 ・AI×ファッション先端企業の実装責任者 ・倫理・法規制（著作権・フェイク・データプライバシー）の専門家 教員AIリテラシー向上プログラム</p> <p>③：ハンズオン型ワークショップの開催（年2回） ・ファッション教育向けAI利用ガイドラインの策定</p>

2026 活動予定	・登壇校（杉野服飾大学・国際ファッション専門職大学・織田ファッション専門学校）の実践事例集作成
--------------	---

研究部会名	推し活研究部会
部会長/代表	宋 ユキ
メンバー	5名
2025 活動結果	2025年度新設 目的： 「推し活」を、ファッションビジネス領域における新しい消費行動・文化経済現象として学術的に検討する
2026 活動予定	研究アプローチ： 「理論」「実証」「批判的視点」という3つのアプローチを統合して研究を進める。 1) 消費者行動やブランド戦略の観点から、推し活による価値形成を体系化する。 2) 若年層の動機や最新の市場動向を、具体的な事例から分析する。 3) 過剰消費や依存、そして著作権などの倫理的課題を討論する。
2026 活動予定	活動計画： 部会員の募集 年2～3回の研究報告会や勉強会 ファッションビジネス学会での成果発信

研究部会名	戦略研究部会
部会長/代表	首藤 眞一
メンバー	27名
2025 活動結果	7月：勉強会 対面開催 「日本進出前後のLouis Vuittonの戦略とLVMH入りするまでのRIMOWAの戦略」 講師：タカギ&アソシエイツ 代表 たかぎ こういち 氏 10月：研究会 対面開催 ①「ハイローミックスにおける消費者行動の変容とブランドエンゲージメントに関する考察」 ②「環境問題に対する大規模SPAブランドの取り組みと消費者行動の整理」 発表者：文化ファッション大学院大学 准教授 田畑 祐一

2025 活動結果	2月：勉強会 対面開催 「日本における中小繊維製造業の持続性」 講師：ファッションビジネス学会・日本アダプティブファッション協会 理事 山口 大人 氏
2026 活動予定	・ワークショップ 年間1回～3回実施（予定） 文化ファッション大学院大学教員による年間テーマ「ファッションとAI」ワークショップの実施および参加者によるディスカッション ・ゲストスピーカー特別講演（予定） 学術界と産業界の双方に知見を持つ人材を招聘し、ファッションビジネスとAIに関する最前線の実践知・研究知を共有する特別講演の実施

研究部会名	デジタルテキスタイル研究部会
部会長/代表	城田 衣
メンバー	35名（FB学会員13名）
2025 活動結果	① 2025年7月 デジタルテキスタイルアカデミー基礎編 オンラインセミナー 参加者68名 ② 2025年11月 ITMA ASIA報告会 オンラインセミナー 参加者57名 ③ 2026年3月26日 Digital Textile Conference 文化学園大学 参加者93名
2026 活動予定	オンラインまたは対面で3回以上のセミナーを開催予定

研究部会名	FashionGood研究部会
部会長/代表	山口 大人
メンバー	12名
2025 活動結果	① FashionGood lab.#019 Fashion Revolution Week 2025 関連イベント 「Think Globally, Act Locally- 中商事の取り組みから議論する-」 登壇者：中商事株式会社 代表取締役社長 中貴史 開催日：4月24日（火） 開催時間：19時30分～21時 開催方法：オンライン（ZOOM：ミーティング形式） 主催：ファッションビジネス学会FashionGood研究部会

<p>2025 活動結果</p>	<p>② FashionGood研究部会 協力イベント フェアトレードむさしの×ICU SDGs推進室 (ELABEL) フェアトレードミリオンアクションキャンペーン参加イベント 【フェアトレードとSDGsの未来】 第2回フェアトレード リユニオン「出会う、対話する、発見する」 開催日時：2025年5月24日（土）14：00-16：00 16：00-17：00 交流会 会場：国際基督教大学 (ICU) 国際会議室（交流会会場は大学食堂Aエリア） 形式：ハイブリッド（交流会は対面参加のみ）</p>
<p>2026 活動予定</p>	<p>他のボランティア活動が多く時間が取られ活動ができなかった、そのため、今年度は研究会をリビルドする方針で進める。新しく部会員を募り研究会や研修、イベントなどの活動を実施したいと考えている。 活動が頓挫する場合は廃会を検討したい。</p>

<p>研究部会名</p>	<p>ファッション経営学カリキュラム研究部会</p>
<p>部会長/代表</p>	<p>平野 大</p>
<p>メンバー</p>	<p>10名</p>
<p>2025 活動結果</p>	<p>本研究部会は、グローバル化とテクノロジーの進化が加速する現代のファッション産業に対応すべく、日本のファッション教育改革の指針を示すことを目的として2025年度に始動した。前身である「ファッション商業論カリキュラム研究部会」の成果を継承し、経営学的視点、デジタルリテラシー (DX・AI)、およびサステナビリティを核とした学際的アプローチを推進している。</p> <p>2025年10月18日（土）[16：00～17：30 (ZOOM開催)] のキックオフ研究会では、現代の教育課題としてサプライチェーンマネジメント (SCM) におけるDXの重要性を共有し、研究の方向性を定めた。同年12月の「ファッションビジネス学会2025全国大会」では、山本（ひとみ）がサーキュラーエコノミーと江戸時代の循環システムを関連付けたサステナビリティの実装について、平野が伝統技術と歴史を「ヘリテージ」として戦略的に物語化し、模倣困難な経営資源により持続的競争優位性を確立するメカニズムについて発表を行い、部会としての理論的基盤を提示した。</p> <p>2026年1月24日（土）[17：30 - 19：00 (ZOOM開催)] の第2回研究会では、大きな理論的進展が見られた。鶴による「感性の第一原理に基づくファッション経営学カリキュラム設計」の提案に基づき、菅原正博氏の「スタイリング8感性」を基理として、ブルームの教育目標分類 (Bloom's Taxonomy) を現代のファッション教育に最適化させる研究を本格化させた。このフレームワークにより、学生の主体性・判断力・創造性を育むための構造的な学びの設計指針が示された。これを受け、本研究部会では「ファッション経営学」を、感性価値と戦略的枠組みを統合し、持続可能な産業構造を構築する次世代リーダーを育成する学問領域として定義し、理論と実践を高度に融合させるための確固たる学問的基盤を構築していくことを目指していく。</p>

2026 活動予定	<p>2026年度前半は、本研究の中核となる「ファッション経営学」の定義策定に向け、部会メンバーを対象としたアンケート調査をふまえ、多様な学術的・実務的知見を統合した最終合意の形成を目指す。</p> <p>年度後半は、感性理論と経営戦略を融合させた具体的ロードマップの策定とともに、海外主要教育機関との比較分析を本格化させる。諸外国の歴史的背景や産学連携の実態を調査し、日本の教育環境への応用可能性を検討した上で、実践的な教育改革に向けた提言を、論文執筆や学会発表を通じて社会に発信する計画である。</p>
--------------	---

研究部会名	ファッション産業史研究部会
部会長/代表	福永 成明
メンバー	15名
2025 活動結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1～5月 欧米のファッションビジネスに関する資料収集と整理 ・ 6～10月 「ファッション産業年表」作成に向けての資料収集と整理 ・ 9～12月 仮想表現の「ファッション産業史展」の構想作成 ・ 12月 全国大会にて口頭発表 ・ 随時 国会図書館にて業界専門紙のバックナンバーの閲覧と必要記事のコピー
2026 活動予定	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究部会の体制整備（若手の研究者を拡充） ・ 産業史のセミナー開催 ・ 「ファッション産業史教材」の検討 ・ 継続して内外のファッション産業史に関する資料収集と整理 ・ 継続して業界専門紙のバックナンバー閲覧と必要記事の収集 ・ 研究会の開催頻度を高める

研究部会名	ファッションデザイン研究会 *未提出
部会長/代表	
メンバー	
2025 活動結果	
2026 活動予定	

研究部会名	ファッションロー研究部会
部会長/代表	関 真也
メンバー	20名

<p>2025 活動結果</p>	<p>2025/ 1/22 研究会の開催 テーマ 知的財産権とSDGsとの関係 ～商標権は、アップサイクルの妨げとなるか?～ 報告者 安田 和史 氏 (株)スズキアンドアソシエイツ 取締役) 内 容 ファッション産業は過剰生産と大量在庫、大量廃棄の問題（ファッションロス）により、SDGsの目標達成が難しい分野であるとして批判されています。このような中、欧州ではファッションロスに対する批判が高まっており、廃棄にかかる規制が進んでいます。他方、日本では、リサイクルやリユース、アップサイクルの取り組みが進んでいるものの、まだそのような議論まで至っていません。これまでのファッションと知的財産の話題の中心は、どのようにしてファッション製品を知的財産法によって保護をするのかというものでした。しかしながら、SDGsという視点を加えると、保護のあり方によっては課題も少なくありません。本報告においては、商標権による保護が衣料品の「持続不可能」な状態を作り出す問題について考察を行います。</p> <p>2025/10/29 研究会の開催 テーマ アバターファッションと知的財産法 ～メタバース時代のブランド・デザイン保護と権利処理～ 報告者 関 真也 (弁護士 / 当研究部会 部会長) 方 法 Zoomによるオンライン開催 内 容 仮想空間では、アバターとして着用する衣服やアクセサリが自己表現の手段として人気を集めており、この領域に参入するファッション企業も多くみられるようになりました。知的財産法の観点からも、令和5年の不正競争防止法改正（商品形態模倣）に続き、現在、仮想空間におけるデザインの保護の充実を目的とする意匠法改正に関する議論などが進んでいます。クリエイターの保護とユーザーの利便性の適切なバランスをとり、仮想空間におけるファッションビジネスの発展に寄与することを目指して、著作権、意匠権、商標権、不正競争等の知的財産権によるアバターファッションの保護と、規約・契約等による権利処理のあり方につき、現在地を確認するとともに将来像について議論を進めます。</p>
<p>2026 活動予定</p>	<p>■研究会の開催 (テーマ案)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 生成AIとファッションビジネスの知財法務 • メタバースとファッションビジネスの知財法務 • ブランド・デザインの模倣と知的財産権 • 環境規制・循環経済（製品ライフサイクル管理/アップサイクルなど） • グリーンウォッシングと広告規制（景品表示法など） • サプライチェーンにおける人権デューデリジェンスと企業責任 • ファストファッション規制の動向（欧州を中心に） • ファッションビジネスと消費者訴訟・説明責任 <p>■ファッション専門学校の学生向けのテキスト制作の企画検討</p>

研究部会名	服装社会学研究部会
部会長/代表	田中 里尚
メンバー	10名
2025 活動結果	<p>「ファッションアーカイブズをひもとく——パリ支局アーカイブズ編」 “Unfolding the Fashion Archives of Bunka Gakuen Fashion Resource Center”</p> <p>開催期間：2026年 2月16日（月）～20（金） 10：00～17：00 2月24日（火）～27（金） 10：00～17：00 3月2日（月）～6（金） 10：00～17：00 3月9日（月）～11（水） 10：00～17：00 ※土日祝は閉館</p> <p>場所：文化学園ファッションリソースセンター展示室 渋谷区代々木3-22-1 文化学園F館B 1階 主催・企画：文化学園ファッションリソースセンター・工藤雅人（文化学園大学服装社会学研究室）</p>
2026 活動予定	<p>*会員および事務局の入れ替わりと、IT化の推進のため、ファッションビジネス学会事務局を通して、再度、会員としての参加を募るFormsを送らせていただきます。</p> <p>*年1回の勉強会・研究会・研究成果発表展示などの開催を目標にしている。</p>

研究部会名	+10Y研究部会
部会長/代表	篠崎友亮
メンバー	20名
2025 活動結果	<p>2025年度 活動実績全10回開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2025.04.10 <p>現代アート—芸術と社会 講師：山本 浩貴（文化研究者）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2025.04.24 <p>ヴィンテージ・ファッションの文化史と価値変遷 発表者：大西 健太（東京科学大学大学院）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2025.06.02 <p>アート講座：世界に再び夢を与える草間彌生 講師：飯田 高誉（スクール デレック芸術社会学研究所 所長）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2025.06.22 <p>ファッション展を共に考える：記憶と未来 講師：小形 道正（大妻女子大学 家政学部 専任講師）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2025.07.01 <p>ファッションをジェンダーで超えていく VOOX Future Lab × FashionStudies® 共同開催（ARCH&LINE・男性学との対話）</p>

2025 活動結果	<ul style="list-style-type: none"> ・2025.07.18 友沢こたおは、「叫び」続けている 対話：友沢こたお（画家）×飯田高誉 ・2025.11.15 販売は幸せを届ける仕事 登壇者：神崎 裕介 × 秋山 恵倭子（株式会社BRUSH） ・2025.12.05 アール・デコとモード（KCIコレクションを中心に） 講師：筒井 直子（京都服飾文化研究財団 キュレーター） ・2026.02.15 書籍『わたしの服はどこからきてどこへいくの？』出版記念 登壇者：鎌田 安里紗 × マルティンメンド有加（一般社団法人unisteps） ・2026.03.14 アートディレクター千原徹也著作『センスのレッスン』出版記念トーク 千原 徹也 アートディレクター/映画監督/れもんらいふ代表 対話ゲスト 軍地 彩弓 編集者/ファッション・クリエイティブ・ディレクター
2026 活動予定	今後もFashionStudies®（ファッションスタディーズ）との共催を予定

研究部会名	ユニバーサルファッション研究部会
部会長/代表	杉野公子 / 杉野公子
メンバー	5名
2025 活動結果	<p>NPO法人ユニバーサルファッション協会の共催講演会・イベントの協力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボタンにまつわるエトセトラ…附属品の選び方（6月） ・アイリスボタン博物館 見学会（8月） ・『やさしさをすべての人に～あなたも持っているファスニング商品の今とこれから～』（10月） ・『良いモノづくりへの提案～附属の役割と必要性及びデザインとの関連性～』（11月）
2026 活動予定	NPO法人ユニバーサルファッション協会の共催講演会・イベントの協力

研究部会名	ラグジュアリービジネス研究部会
部会長/代表	篠崎 友亮
メンバー	15名
2025 活動結果	<p>2025年度 活動実績全8回開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2025.05.31 Gayoh Explore #003 伝統工芸の未来への糸口

<p style="text-align: center;">2025 活動結果</p>	<p>ゲスト：立川 裕大（伝統技術ディレクター）／コメンテーター：中野 香織 ・2025.08.04</p> <p>明治期の万博に学ぶ日本の美意識（現代ラグジュアリーへの羅針盤） VOOX × FashionStudies® 共同開催 講師：中川 麻子・畑 久美子 ・2025.08.11</p> <p>Gayoh Explore #004 ローカルラグジュアリーを再考する ゲスト：北林 功（COS KYOTO）／コメンテーター：中野 香織 ・2025.12.04</p> <p>Gayoh Explore #005 大蔵山スタジオの変貌+見学会 ゲスト：山田 能資（大蔵山スタジオ株式会社 5代目） ・2026.01.12</p> <p>アール・デコから現代へ続く美の系譜 登壇者：中村 美由紀（アートコンサルタント）・筒井 直子（KCI） ・2026.01.23</p> <p>IFMの概要とLuxury関連文献の紹介 発表者：中村 茂（FB学会理事・国際交流委員） ・2026.02.17</p> <p>Gayoh Explore #006 銀座・和光に学ぶ「商いの美学」 ゲスト：庭崎 紀代子（株式会社 和光 代表取締役社長） ・2026.03.22</p> <p>テロワールと価値の循環を考える トーク&対話会 講師：北林功 COS KYOTO株式会社 代表取締役・コーディネーター</p>
<p style="text-align: center;">2026 活動予定</p>	<p>年に数回、研究会開催 FashionStudies®（ファッションスタディーズ）、雅耀会 Gayoh Societyとの 共催</p>

<p style="text-align: center;">研究部会名</p>	<p>リファッション研究部会</p>
<p style="text-align: center;">部会長/代表</p>	<p>佃 由紀子</p>
<p style="text-align: center;">メンバー</p>	<p>FB学会メンバー 9名 外部協力メンバー 1</p>
<p style="text-align: center;">2025 活動結果</p>	<p>①アパレルリサイクル研究部会（旧東日本支部）の活動を、当研究部会に統合</p> <p>②2026年2月15日 ファッションビジネス学会+10Y研究部会共催イベント《さすてなぶるファッション®016書籍『わたしの服はどこからきてどこへいくの?』出版記念トーク——服と人とのサステナブルな関係を考える》 当部会として参画。6名参加。 当日別会場にて、意見交換実施</p>
<p style="text-align: center;">2026 活動予定</p>	<p>①メンバーが有する専門分野について、部内で共有し互いの知見を深める ・『リユースリメイク』をテーマに衣装制作・スタイリングに関する研究 ・他</p> <p>②外部の有識者を招き、意見交換会を実施 ・故繊維業&お直し業のスペシャリストとの意見交換会 ・他</p>

13 活性化五カ年計画事業

2021年度から始まった活性化5カ年計画の結果について報告する。

活性化5カ年計画の検証結果		FBGAKKAI		
イベント				
目標テーマ	担当	計画	達成度	評価
イベントの拡充	☆企画広報委員会 ☆FBアワードY実行委員会	・ファッション・イベントに関する調査を行い、当学会と関係性の強いイベントを抽出 ・各研究部会の発表スケジュールを把握 ・新規に開催するイベント・プランを立案	調査は未着手だが「FBアワードY」を 研究部会の報告会を開催 随時に検討中	イベントはFBアワードYをはじめ産地研修などを定期化
2026以降→独立委員会/分科会への昇格について検討する				

研究				
目標テーマ	担当	計画	達成度	評価
サステナブルに関する研究	☆総合運営会議	総合運営会議において取り組み方を検討次第、特別委員会（ファッション・サステナブル研究）を編成 ・ファッション産業界が注目する「ファッション・サステナブル報告書」をまとめる	研究部会が推進、全体の活動に至らず、特別研究チームは未編成 報告書の策定は未着手	特別委員会でのサステナブル研究は未着手に終わった
2026以降→サステナブルは常態化したのでAIにシフトする必要性を検討				

研究

目標テーマ	担当	計画	達成度	評価
文化（デザイン・クリエイション）領域に寄与	☆総合運営会議	・ファッション・デザイナーとの関係性を強める。 ・ファッション・ライブラリーのデータベース（国内、海外）の作成 ・関係文献調査	未着手 未着手 未着手	「創工商」のうち創：デザイン・クリエイション分野の強化は急務、活動プランを含めて実行すべき

2026以降→文化系（デザイン・クリエイション）の新規研究部会を検討する

国際化

目標テーマ	担当	計画	達成度	評価
海外在住者とのパイプづくり	☆国際交流委員会	リストを作成	未着手	「在住者」の位置づけを明確にする
海外の関連文献の調査	☆国際交流委員会	リストを作成	未着手	「在住者」の位置づけを明確にする

2026以降→国際交流委員会の再編を検討する

デジタル化

目標テーマ	担当	計画	達成度	評価
デジタル化およびオンライン化	☆総務委員会主導 ☆各委員会 ☆イベント分科会	・デジタル化に向けた基本計画を作成 ・当時進行として実施できるプランについては実現化	Zoomによる会議は常態化 進行中	特別講演、FBアワードはオンラインで推進 デジタル化オンライン化をはたす
論文誌と学会誌のWebジャーナル化	☆論文審査委員会 ☆情報誌図書編集分科会	・論文誌のデジタル化を検討 ・学会誌復刊の編集方針を策定、発行内容、発行時期を検討	論文誌をデジタル化 学会誌をデジタル化	論文誌デジタル版を発行 学会誌デジタル版「GAKKAIPRESS」を発行

2026以降→引き続き推進する

会員強化

目標テーマ	担当	計画	達成度	評価
会員の増強	☆総務委員会	・会員増強の基本計画を立案 ・会員候補のリストを作成	総務委員会を改革し、活動を強化	会員増強の計画書は策定したが実行に至らず、活動の戦術プランが急務
ファッション関連の大学教員を勧誘	☆総務委員会	・リストを作成	未着手	勧誘に至らず
賛助会員の増強	☆総合運営会議	・産業団体への理解を求める ・企業向けの対応策を立案	・微力ながら推進 ・対応策は作成	理事会メンバーを含めて実行プランの具体化が必要

2026以降→会員強化/活動予算の確保について検討

2025年度 収支決算報告書

(2025年4月1日～2026年3月31日)

単位：円

科 目	金 額
I. 収入の部	
会 費 収 入	2,809,000
研 究 会 ・ 講 習 会 収 入	0
論 文 誌 掲 載 料	215,290
雑 収 入	550,936
全 国 大 会 収 入	469,748
当期収入合計 (A)	4,044,974
前期繰越収支差額	9,060,858
収入合計 (B)	13,105,832
II. 支出の部	
管 理 費	
旅 費 交 通 費	63,676
通 信 費	570
印 刷 費	0
事 務 用 品 費	131,589
雑 給 与	1,370,879
雑 費	6,545
管理費合計	1,573,259
事 業 費	
学 会 誌 ・ 論 文 誌 発 行	440,105
全 国 大 会 費	705,818
研 究 部 会 費	82,555
総 会 費	98,450
講 演 会 費	0
会 議 費	31,302
企 画 運 営 費	1,411,100
賛 助 会 費	0
書 籍 費	0
事業費合計	2,769,330
支出の部合計 (C)	4,342,589
当期収支差額 (A)-(C)	-297,615
繰越収支差額 (B)-(C)	8,763,243

財産目録

(2026年3月31日現在)

単位：円

科目	現金	普通預金	郵便振替貯金	合計
本部	46,399	1,038,286	7,678,558	8,763,243

貸借対照表

(2026年3月31日現在)

単位：円

資産の部		負債の部	
現金	46,399		0
普通預金	1,038,286	資本の部	
郵便振替貯金	7,678,558	繰越剰余金	8,763,243
仮払金	0	(当期剰余金)	
資産の部	8,763,243	負債・資本の部	8,763,243

監査報告

ファッションビジネス学会定款第40条の規定により2025年度の決算報告について、帳簿・預金通帳・銀行残高証明書と照合の結果、期間の収支、期末における貸借対照表ともに適正に表示されていることを認めます

2026年5月1日

監事 雑賀 透



第2号議案

2026年度 事業計画と予算承認の件

(2026年4月1日～2027年3月31日)

事業計画案

1 全国大会

2026年度ファッションビジネス学会全国大会を関西エリアにおいて11月に開催予定

2 FBアワードY2026

学生対象のファッションビジネス企画コンテスト「FBアワードY2026」(5年目)を2026年5月の募集からオンラインによる最終審査会を8月8日に開催予定

3 若手の育成

高校生以下の「ジュニア会員」(仮称)の設置を検討、それに関連したイベントの開催を予定

4 研修会

企画広報委員会イベント企画分科会主催による夏と春の産地研修会を実施予定

5 拠点(関東・近畿・中国・九州)におけるイベント/研究会/研修

◇関東拠点

次代の学会を担う若手研究者育成の一環として、学生向け発表機会を拡充、卒業論文・卒業制作との連携も推進する

全国大会の口頭発表では、遠方参加の負担軽減を目的にオンライン学生枠およびポスタープレゼンテーション等で発表・講評を受けられる学生枠を新設することを検討予定

◇近畿拠点

以下、研究会を開催予定

テーマ：近畿から考える日本のファッション産業の未来

タイトル案：関西ファッション産業研究フォーラム

活動案：2ヶ月に一度、オンラインと対面を組合せた計6回の研究会を開催予定

◇中国拠点

・7月に会員・一般・学生を対象に三備地区の魅力伝える講演会、および西日本産地において特徴ある方々を紹介するオンラインによる講演会を開催予定

・8月末に中国地域における岡山県倉敷市児島エリアを中心とした一泊二日のデニム・ジーンズ産地研修をイベント企画分科会と連携して開催予定

◇九州拠点

- 1) 学びの場：講演会・セミナー等の共催事業の拡大
 - ・香蘭女子短期大学主催による講演会を年2回、6月・11月に開催予定
 - ・日本アパレルファッション産業協会によるパターンセミナーを6月と10月に開催予定
- 2) 人をつなぐ
 - イベントやセミナー等において参加者をつなぎ、新たなビジネスメイクをサポートする
 - 会員だけではなく、一般の参加者が気軽に参加できる企画とする
- 3) 認知度を向上する
 - ファッションビジネス学会の認知度、研究部会の認知度向上を図る

6 委員会/分科会の組織改編と活性化

国際交流委員会の組織改編およびアワード実行委員会の分科会への昇格等の検討を予定

7 研究会活動の充実と活性化

デザイン・クリエーション系およびアパレル・エンジニアリング系などの新規研究部会の設置を検討、および活動発表会の年度末開催を予定

8 論文誌発行

論文審査委員会によるデジタル版のVol.31を2026年3月末に発行予定

9 GAKKAIPRESS発行

企画広報委員会情報誌/図書編集分科会によるデジタル版の学会情報誌「GAKKAIPRESS」を年2回、Vol.8、Vol.9を発行予定

10 学会活動およびPR広報活動の充実と会員/予算の強化

理事会および関連委員会/分科会における検討、およびホームページのリニューアルを予定

11 2027年度理事会・総会

2027年度の理事会・総会・特別講演会を2027年5月中旬に開催予定

2026年度 予算(案)
(2026年4月1日～2027年3月31日)

単位：円

科 目	予 算
I. 収入の部	
会 費 収 入	3,100,000
研 究 会・講 習 会 収 入	100,000
論 文 誌 掲 載 料	200,000
雑 収 入	550,000
全 国 大 会 収 入	500,000
当 期 収 入 合 計	4,450,000
前 期 繰 越 収 支 差 額	8,763,243
収 入 合 計	13,263,243
II. 支出の部	
管 理 費	
旅 費 交 通 費	100,000
通 信 費	5,000
印 刷 費	5,000
事 務 用 品 費	135,000
雑 給 与	1,400,000
雑 費	30,000
管 理 費 合 計	1,675,000
事 業 費	
学 会 誌・論 文 誌 発 行	450,000
全 国 大 会 費	700,000
研 究 部 会 費	90,000
総 会 費	100,000
講 演 会 費	0
会 議 費	30,000
企 画 運 営 費	1,400,000
賛 助 会 費	0
書 籍 費	5,000
事 業 費 合 計	2,775,000
支 出 の 部 合 計	4,450,000
当 期 収 支 差 額	0
繰 越 収 支 差 額	8,763,243

第3号議案

定款および運営内規の一部改訂について

◇定款改訂箇所

- *学生会員の入会規定から高校生以下を外す

第3章 会員 学生会員 第10条

学生会員は、将来正会員になるべきもので、高校を卒業したものとする。

◇運営内規改定箇所

- *総務委員会を共創企画委員会に改め、目標を修正、事務局業務と重複する箇所を削除する

第4章 運営4委員会と研究委員会および任期 運営4委員会と傘下分科会 第8条

共創企画委員会は、会員（正会員・準会員・学生会員・賛助会員）の拡大計画の新設計画を理事会に提案し、承認後は関連する委員会/分科会と連携して計画を実行する。

第10章 付則 「運営内規」の改訂と施行 第22条

運営内規で規定されていない事項については、本部事務局が関係のある機構と協議して当面の解決をはかり、必要と判断される場合は、運営内規に条項を追加するものとする。運営内規は、毎年度の総会後に見直し、必要な改訂を行って、理事会の承認を受けたあと直ちに発効するものとする。運営内規の見直しについて理事会への提案は本部事務局が行う。

第4号議案

2026年度 役員並びに名誉会員（案）

2026年5月1日現在（敬称略）

会 長	平 井 秀 樹	国際ファッション専門職大学 国際ファッション学部 教授
副 会 長	山 本 ひ と み	神戸国際大学 経済学部 教授 経済文化研究所 所長
理 事	青 木 稔 依 田 素 味 上 田 哲 也 内 海 里 香 岡 田 絵 梨 奈 岡 本 義 行 窪 浩 志 櫛 下 町 伸 一 佐 々 木 幸 二 首 藤 眞 一 申 恩 泳 鈴 木 康 久 五 月 女 由 紀 子 田 口 一 子 土 屋 淳 二 中 村 茂 福 永 成 明 増 田 大 助 安 田 和 史 和 田 康 彦	文化ファッション大学院大学 非常勤講師 大妻女子大学非常勤講師・元日本経済大学教授 上田学園 名誉会長 文化ファッション大学院大学 ファッションビジネス研究科 教授 香蘭女子短期大学 ファッション総合学科長 教授 法政大学 特任教授 株式会社ビームス 取締役 エグゼクティブクリエイティブディレクター 文化学園理事 文化出版局 局長 文化ファッション大学院大学 学長 織研新聞社 代表取締役社長 文化ファッション大学院大学 ファッションビジネス研究科 ファッション マネジメント専攻 専攻長 文化学園国際交流センター 所長 文化学園大学 服装学部長 教授 杉野学園理事 杉野服飾大学 学部長 教授 杉野服飾大学 服飾学部 教授 元中国デザイン専門学校 学校長 一般社団法人 JAPAN DENIM JEANS産業振興協会 代表理事 早稲田大学 文学学術院 教授 元神戸松蔭大学教授・文化ファッション研究機構共同研究員 ファッションビジネス学会 専務理事 ファッションリンクス代表 ファッションビジネス学会 常務理事 事務局長 株式会社スズキアンドアソシエイツ取締役 日本知財学会 事務局長 法政大学 理工学部／法学部 講師 ヴォートレイル ファッション アカデミー 校長
監 事	雑 賀 透	株式会社島精機製作所 東京支店 チーフアドバイザー
名誉会員	尾 原 蓉 子 小 山 田 道 弥 坂 根 康 秀 中 村 賢 二 郎 森 慈 郎	元WEF創設者・名誉会長 元IFIファッションビジネススクール学長 ファッション総研代表 学校法人山内学園理事 元ファッションビジネス学会西日本支部長 元杉野学園理事長 元ファッションビジネス学会東日本支部長 ヴォートレイル ファッション アカデミー 顧問 元ファッションビジネス学会関西支部長

ファッションビジネス学会 会員数の推移

(2026年3月31日現在)

	個人会員	学生会員	計	法人賛助会員
2015年度	463名	28名	491名	21社
2016年度	446名	24名	470名	20社
2017年度	455名	15名	470名	19社
2018年度	447名	17名	464名	19社
2019年度	449名	18名	467名	17社
2020年度	462名	23名	485名	15社
2021年度	454名	29名	483名	15社
2022年度	436名	58名	494名	15社
2023年度	426名	58名	484名	15社
2024年度	410名	58名	468名	15社
2025年度	399名	43名	442名	15社

(年度末時点の会員数)



ファッションビジネス学会

■本部 〒151-8523 東京都渋谷区代々木3-22-1 文化学園内
MAIL : fbgakkai.1993@gmail.com